

会話ハウトゥ本に見られる合理主義的コミュニケーション観

神戸大学

桶川泰

1 目的

近年、コミュニケーション能力の必要性が至る所で力説されている。例えば、日本経済団体連合会が2015年時にまで行った「新卒採用に関するアンケート調査結果」では、企業が採用選考時に重視する要素において12年連続で「コミュニケーション能力」が第1位となっている。

社会学においてもまたコミュニケーション能力の要請が強まることに警鐘を鳴らす研究が現れている。例えば、90年代以降、ハイパーメリトクラシー化の中でコミュニケーション能力も新しい能力の1つとして要請されることを明らかにした(本田 2005)の研究などを代表的な研究として挙げることができる。

一方、コミュニケーション能力という概念を疑問視する議論も現れている(貴戸 2011)(佐藤・広田 2010)。「コミュニケーション能力」という概念が浸透していく中で、如何なるコミュニケーションの取り方が高度化しているのかに関しては、これまでの研究ではブラックボックスとなっていたというのも事実だろう。

本発表では、そうした学術的研究背景を踏まえ、会話の取り方についてのハウトゥを提供する書籍類から、今日のコミュニケーション能力が力説される2000年代の日本社会において、如何なるコミュニケーションの取り方が高度化しているのかを報告する

2 方法

分析資料となる会話ハウトゥ本は『出版指標年報』(全国出版協会)を利用して収集した。『出版指標年報』では「哲学・宗教」「歴史・地理」「ビジネス書」「社会科学」など、分野別に書籍の出版傾向が紹介されているが、語学の日本語分野ではよく売れた会話のハウトゥ本も紹介されている。本発表では1975年～2016年の『出版指標年報』語学分野で紹介されているハウトゥ本を分析資料としている。また、多くの会話ハウトゥ本の中で、コミュニケーション技法の基本的な能力にして最も重要な能力として認識されている「聞き上手話法」に着目し、「聞き上手話法」の時系列的な内容分析を行った。

3 仮説

コミュニケーション技法の基本的な能力にして最も重要な能力として認識されている「聞き上手話法」では、「会話のキャッチボールを成立させるためには、まず相手があなたと『話をしたい』という意欲を持たせる必要がある」「私はあなたの話・あなたのことに興味・関心があります。あなたに共感・理解している」というメッセージを伝えていくための重要性が強調されている。

本発表では、「コミュニケーション能力」がクローズアップされてきた背後には、個人化による連帯感の喪失と孤立化が進行することによって、逆説的に、高度化された相手の人格への尊重・配慮する会話技法が社会的に希求されるようになったという仮説を立てている。そのため「相手の人格への尊重・配慮する会話技法」である「聞き上手話法」が重要性を持つようになったと考えている。

文献

本田由紀 2005 『多元化する「能力」と日本社会 ハイパー・メリトクラシー化のなかで』NTT出版。

貴戸理恵 2011 『「コミュニケーション能力がない」と悩むまえに』岩波書店。

佐藤俊樹・広田照幸 2010 「対論 働くことの自由と制度」、佐藤俊樹編『自由への問い6 労働——働くことの自由と制度』岩波書店。